

川越市 新河岸川 洪水ハザードマップ

このハザードマップについて

この地図は、川越市および周辺地域の主な河川の中で、新河岸川が大雨のためあふれて洪水が発生した場合を想定して埼玉県がおこなった解析の結果をもとに、浸水する範囲、水深ならびに避難場所を示し、方が一の場合に備えて住民のみなさまの安全な避難に役立つよう作成したものです。

河川があふれる恐れがあるときには、市から避難勧告や避難指示がされますので、指示にしたがってすみやかに避難してください。また、家屋の浸水や道路の冠水など、大雨により発生する災害について日頃から想定しておき、大雨の時は状況に注意して、危険を感じたら早めの避難を心がけましょう。

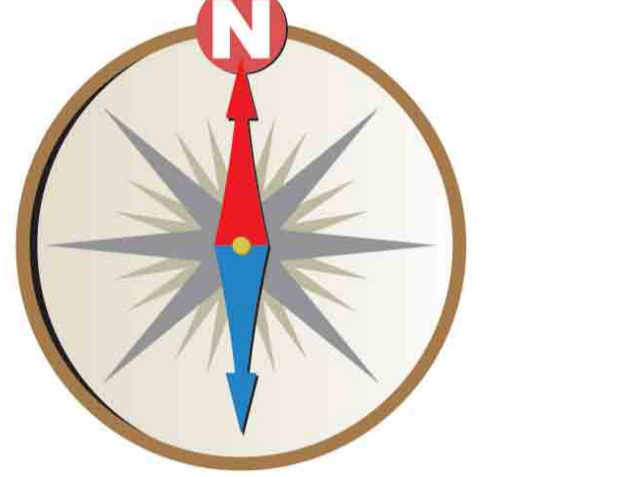
いざという時に備え、あなたの家から避難場所までの経路や家族の連絡先などを書き込んで、見やすい場所に貼っておきましょう。

なお、着色された区域以外でも、雨の降り方や土地利用の変化などにより浸水することがありますので注意して下さい。

洪水ハザードマップに関するお問合せ先

川越市役所河川課
川越市元町1-3-1
TEL. 049-224-8811

発行：平成22年3月



1 : 20,000

※このマップでは、新河岸川ではん蓋が発生した場合に浸水するおそれのない区域を一部省略しています。このマップに表示されていない地域については、裏面の「荒川・入間川洪水ハザードマップ」を参照してください。

浸水想定区域図(埼玉県)

この洪水ハザードマップは、埼玉県の作成した「荒川水系新河岸川・柳瀬川浸水想定区域図(埼玉県河川砂防課、平成18年)をもとに作成しました。想定されている雨量は、**昭和57年台風18号洪水時の降雨に基づくもので、2日間に332.6mm、統計上100年に1回程度の確率で起こる大雨**に相当します。

■関連情報(ホームページ)
埼玉県HP
<http://www.pref.saitama.lg.jp/>
→県土整備部一河川砂防課
→「洪水予報河川並びに浸水想定区域の指定について」を参照

上記の浸水想定区域図では、洪水予報指定区間となっている不老川合流点から下流の区間が検討の対象となっています。

凡例

防災関係施設	
	国土交通省の施設
	埼玉県の施設
	川越市の施設
	警察署・交番・駐在所
	消防本部・消防署・分署
	救急指定病院

交通網	
	J R線(川越線)
	私鉄他社線(東武東上線、西武新宿線)
	自動車専用道路(圏道、道央道)
	一般国道
	主要地方道・一般県道

避難の目安	
	避難方向の目安
	主な橋

浸水想定区域図(荒川・入間川下流※・新河岸川)	
	水深5.0m以上の区域
	水深2.0~5.0mの区域
	水深1.0~2.0mの区域
	水深0.5~1.0mの区域
	水深0.5m未満の区域

その他	
	浸水のおそれがある箇所
	アンダーパス ポンプ設置箇所

浸水想定区域の着色は、次のように両面に分けて表示しています。

【荒川・入間川】
・荒川
・入間川(落合橋付近から下流)

【新河岸川】
・新河岸川

災害時に備えた準備

我が家の避難場所	災害時の緊急連絡先
	※確実に連絡の取れる親類・知人など
家族の名前	生年月日
	血液型
	会社・学校等の電話番号

お名前		連絡先
自主防災会長		
自治会長		
班長		

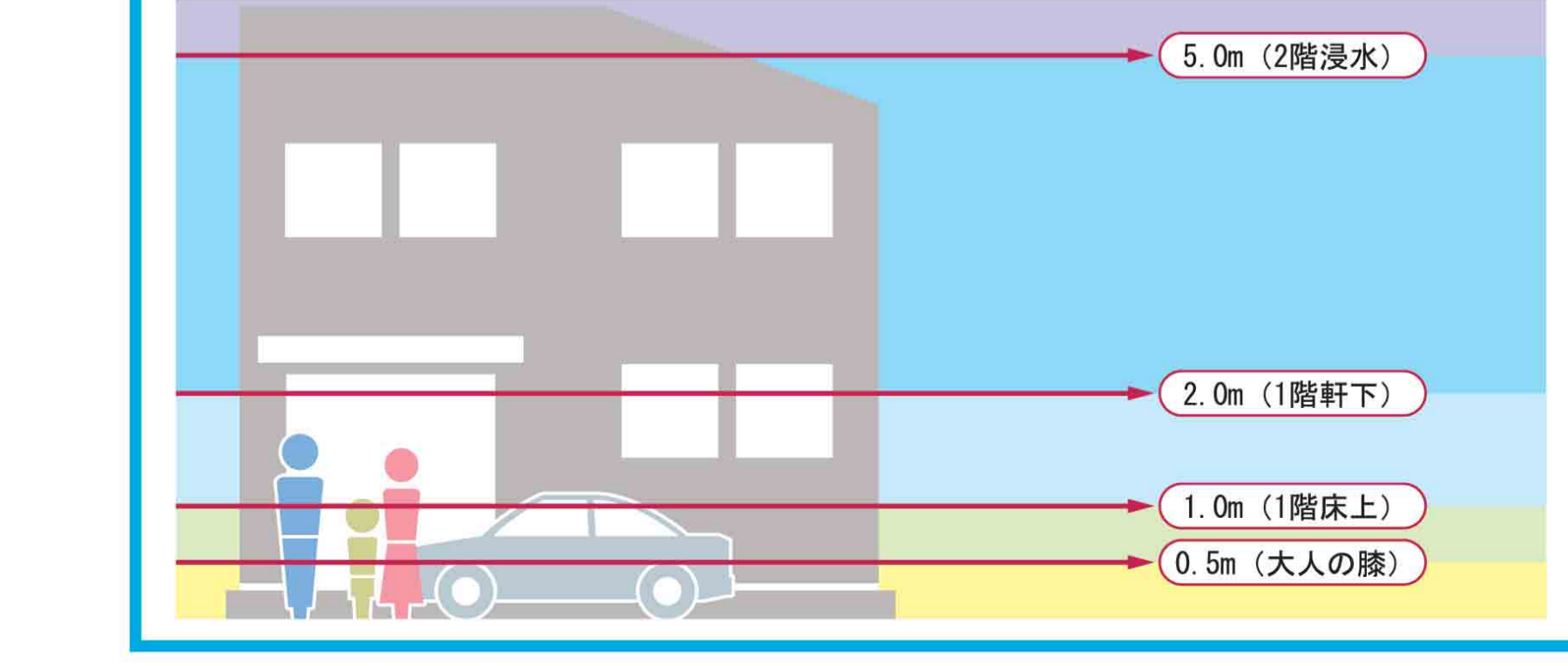
ラジオ周波数	
NHK第1	594kHz
文化放送	1134kHz
ニッポン放送	1242kHz
NACK5	79.5MHz

持出品チェックリスト	
	携帯電話、ラジオ、懐中電灯、非常食
	飲料水(1日1人1リットル)非常食
	医薬品
	衣類(肌着等)
	現金、貴重品 ※小銭は公衆電話などに便利です

想定浸水深の目安

ハザードマップに表示している想定浸水深を図にすると、このようになります。

実際の水深は、現地の地形によって大きく異なる場合も出てきます。河川のほか、用水路、くぼ地、アンダーパス(説明参照)などに注意しましょう。



災害時要援護者の利用する施設

高齢者などの方は、避難に時間を要すること、災害情報が伝わりにくいことなどから「災害時要援護者」と位置付けられます。

災害時要援護者の方が主に利用される施設に対しては、市役所から特別に洪水予報などの情報伝達を行うことを「地域防災計画」の中で定めています。

洪水のおそれがある場合、災害時要援護者の滞在が想定される施設を掲載します。

なお、特別支援学校、保育園、作業所など基本的に自宅から通って利用する施設、浸水想定区域外に位置する施設については掲載していません。

掲載ありの例	掲載なしの例
特別養護老人ホーム ケアハウス グループホーム	特別支援学校 各種の支援センター 作業所
病院・診療所 など (ただし、救急病院は防災関係施設を参照)	児童館 など

分類	名称	所在地
老人ホーム	川越キングス・ガーデン	下小坂
	すみれの里・川越	古谷本郷
	ぼぶらの樹	牛子
	アリス	府川
高齢者施設	ケアハウス主の園	下小坂
	グループホーム福音の園・川越	木野目
	グループホームふる郷川越	上老袋
	ケアハイツ・川越	古谷本郷
障害者施設	初雁の家	平塚新田
	にじの家	古谷本郷
	潮寮・第2潮寮	平塚新田
	しらこぼたの家・七草の家	平塚新田
病院・診療所	愛和病院	古谷上
	トワム小江戸病院	下老袋
	伊佐沼クリニック耳鼻咽喉科	古谷上
	野田医院	並木新町

※浸水想定区域外の施設は除く

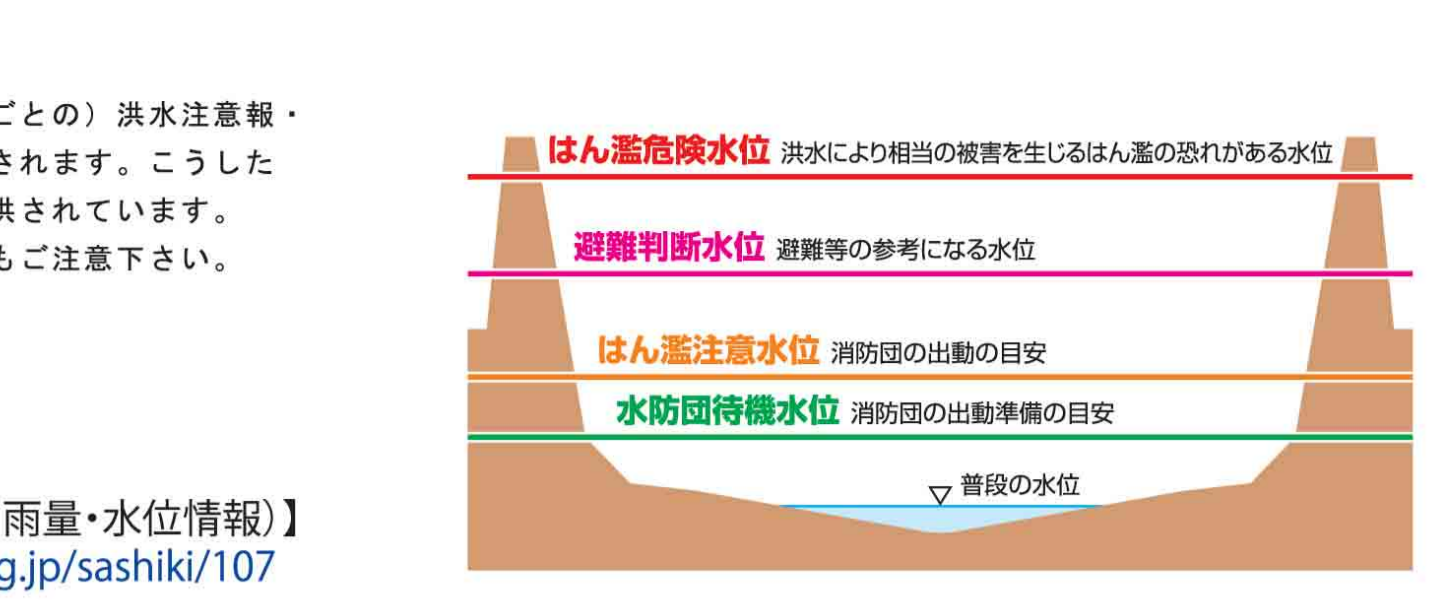
インターネット等を通じた情報収集

河川の水位情報

河川の水位を参考に、(河川・地域ごとの)洪水注意報・警報および避難勧告や避難指示が出されます。こうした情報は、インターネットでも随時提供されています。市からのお知らせ・報道発表などにもご注意ください。

インターネットを通じた情報提供

- 国土交通省【川の防災情報】
<http://www.river.go.jp/>
- 埼玉県【河川砂防課(埼玉県内の雨量・水位情報)】
<http://www.pref.saitama.lg.jp/sashiki/107>



川越市と周辺地域での基準値

官称	国土交通省 (単位: 各観測所の最高水位+1m)						県 (単位: AF+1)	
河川	荒川	入間川	小川	小野川	入間川	新河岸川	川越市	埼玉県
観測所	熊谷(熊谷町)	油水橋(さいたま市)	小川(川越市)	菅間(川越市)	八幡橋(川越市)	新富士尾(埼玉県)	宮戸橋(朝霞市)	—
堤防設計水位	7.51	14.60	5.00	12.64	5.41	—	—	
はん蓋危険水位	5.60	11.10	3.60	11.80	4.90	4.90	7.45	
避難判断水位	4.80	10.80	3.00	10.60	4.10	4.95	7.00	
はん蓋注意水位	3.50	7.50	2.50	8.00	3.50	4.91	6.00	
水防団待機水位	3.00	7.00	2.00	7.00	3.00	4.840	4.50	

気象情報

埼玉県の天気予報(気象情報)は、「北部」、「南部」、「秩父地方」の3つの区域に分けて発表されます。川越市は「南部」に含まれます。

警報や注意報は、北部を「北東部」と「西北部」、南部を「南東部」、「南中部」、「南西部」に分けて、6つの区域について発表されます。ただし、「埼玉県全域」などのように、まとめて発表されることもあります。

川越市は「南中部」に含まれますが、近隣の飯沼市・鶴ヶ島市・日高市などは「南西部」となっています。また、荒川の水量は上流の県北部と秩父地方の降水量によって変動しますので、周辺地域の情報にも注意しましょう。

土砂災害警報情報

大雨により土砂災害が発生するおそれが高まった場合に、市町村が避難勧告や避難指示を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁(地方気象台)が共同で発表するものです。

平成17年~20年にかけて各地で運用が開始されており、埼玉県でも平成19年12月に運用が開始されています。

この情報は、市町村を単位として発表されます。

インターネットを通じた情報提供

熊谷地方気象台
<http://www.tokyo-jma.go.jp/home/kumagaya/>



埼玉県の地域細分(天気予報や注意報・警報の対象区域)



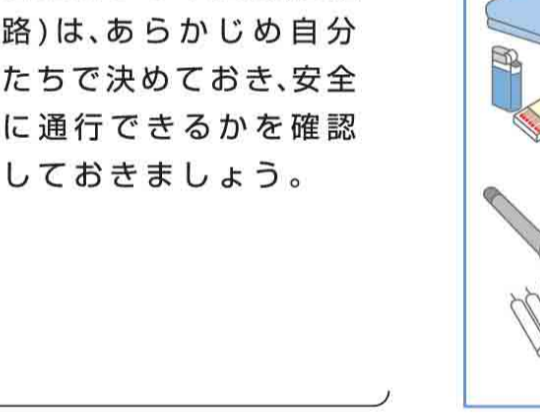
川越市を流れる主要な河川の位置関係

災害に備えた、平常時の心構え

①安全な避難路の確認を



②非常持ち出し品の事前準備を



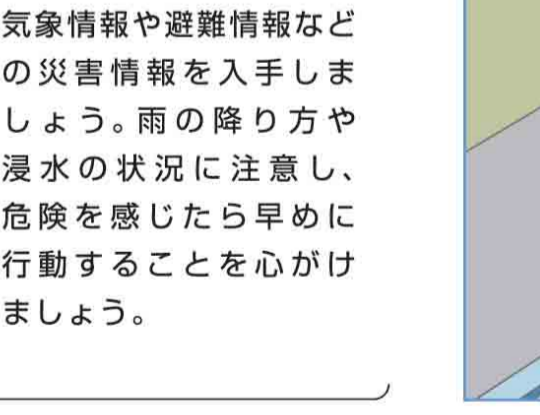
避難するときの荷物は必要なもののみとし、事前に準備しておきましょう。

③避難時の心構え

①正確な情報収集と早めの行動を



②避難の呼びかけに注意を



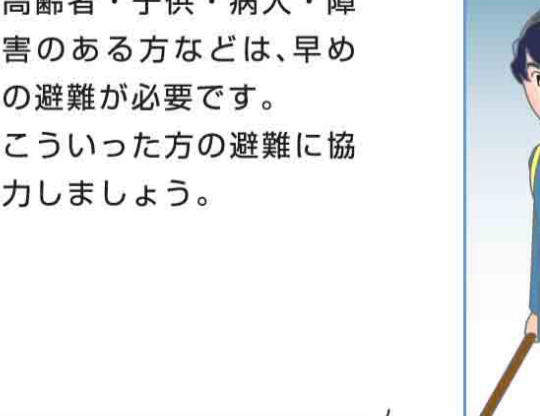
ラジオ・テレビで最新の気象情報や避難情報などの災害情報入手しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら早めに行動することを心がけましょう。

危険が予想される状況となった場合には、市役所や消防団などから避難の呼びかけがあります。避難の呼びかけがあった場合には、それに従いましょう。

③高齢者などの避難に協力を



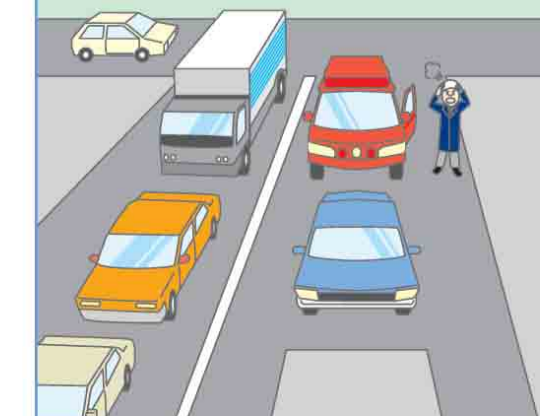
④動きやすい服装・集団での避難



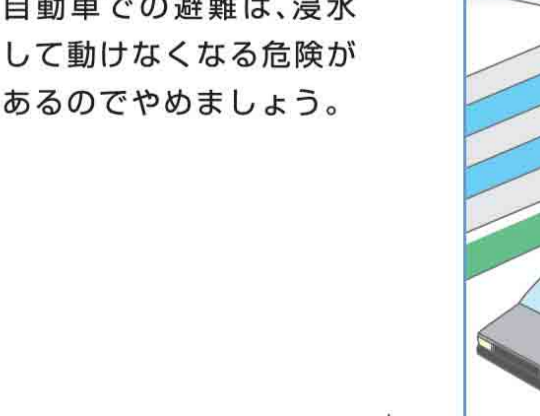
高齢者・子供・病人・障害のある方などは、早めの避難が必要です。こういった方の避難に協力しましょう。

避難するときは、動きやすい服装で、近所の方同士で声を掛け合って一緒に避難しましょう。杖などを持っていると、雨漏りや排水路などに落ちやすいよう注意しましょう。

⑤自動車での避難は危険



⑥道路に車を放置しない



自動車での避難は、浸水して動けなくなる危険があるのでやめましょう。

水防活動の妨げになりますので、自動車を道路に放置しないようにしましょう。